令和2年度学校関係者評価報告書

近畿大学附属高等学校・中学校

【1】近畿大学への進学について

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける1年となったが、大学キャンパスに隣接する近畿大学の附属校としての特性を最大限に活用し、中学校課程では大学各施設を利活用した「調べる・整理する・話し合う・発表する」の体験型学習に重点を置き、高校課程では自らのキャリアデザイン構築に結びつけることができる指導を展開したことが報告された。今後も継続して中学校課程では主体的・対話的で深い学びを実現し、高校課程では十分な知識をもち、それを活用した判断力・表現力を発揮できる主体性を育む附属校ならではの指導を展開する必要があるとし、柔軟な思考と学び方を身につけた社会に貢献できる自立した学習者の育成と近畿大学への進学が肝要であることについて理解を得た。また、大学入学者選抜改革が本校にとってのチャンスと位置付け、大学受験と距離をおいた近畿大学の附属校であることからできることを今後も継続していくことで理解を得た。更に、教育改革推進室と各教科の教育改革担当者中心に新学習指導要領適用に向けての教育改革を進めて行くことについても理解を得た。

【2】生徒育成の徹底について

登下校時に於ける公共交通機関内での周囲への配慮が足りない生徒に対して、年間計画に基づき指導していること。生徒が自律的にマナーを遵守し、思い遣りを行動に移せることのできる指導を展開していることが報告された。新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、中高3グループに分けて分散登校を導入し、コースごとに定められた時間に登校するよう指導したことについて報告され理解を得た。5月1日から11月30日までの間、生徒が自ら天候・体調・一日の予定を考慮し、その日に相応しい制服を着用できるようになり、令和元年度に導入した女子のズボン・キュロットスカート、新しいベスト・セーターが定着したことが報告された。

【3】学習指導の徹底について

iPadの利活用により、中学校課程では「自ら考え・自ら導き出す」授業を展開、ロイロ

ノート・スクールを利活用することにより、生徒が主体的に学べる学習機会が増加している。高校課程では国の緊急事態宣言に伴う4月から6月中旬までの臨時休校の際に実施したオンライン授業をきっかけとして、ロイロノート・スクールなど各種アプリを利活用する授業が増加している。また、授業満足度の肯定的回答率も増えていることにも理解を得た。更に、卒業後も後伸びできる生徒を育成すべく上述の教育活動を展開しているが、教育課程検討委員会を設置し、次期学習指導要領適用に向けた教育課程作成し、教育改革推進室を中心に授業展開と評価法の研究に取り組み、学期テスト以外の形成的評価(50%)を導入したことが報告され理解を得た。

本校では早期にICT教育環境を整備したが、教育改革推進室を中心に生徒一人ひとりが自らの将来の姿を考え、その実現のために必要な学びが能動的にできる教育の場を提供することについて理解を得た。

【4】進路指導の徹底について

特進クラスの群・学年・教科担当者の連携と指導力を強化し、研修会や説明会を通じて生徒の目標達成を支援していること。教員が国公立大学進学情報、在籍生徒の成績分析結果および志望状況に関する情報を共有化した上での細かな進路指導を実施したこと。更に新型コロナウイルス感染症の影響で幾つかのイベントは中止となったが、生徒自身が将来像を描き進学目標を定められるよう、講演会や進学イベントを実施したことを報告し理解を得た。次年度も高大接続各種体験型行事への参加をより奨励する必要があることを説明し理解を得た。

【5】健全な経営状況の維持について

体育館棟 柔道場・剣道場 空調設置工事・人工芝グラウンド ナイター照明改修工事など施設改善をおこなっていることを報告し、生徒募集人員を充足していることが報告され理解を得た。

以上